

きこち。

Yamane_mokuzai quarterly magazine 'Kicocochi' 2017-18 / Winter

特集

薪ストーブと
木の家。



家は、風土。

「木と暮らす。」 実例④



特集 薪ストーブと 木の家。

広島市安佐南区の築100年は超えているという古民家。

夫婦2人暮らしになつたとき、自分たちが暮らしやすく、心地良い空間にしたいと願いリノベーションをした。

冬のひと時。この空間で豊かな大人の時間をつくつている。

リノベーションを行つたのは1階の北側。裏庭に面したガラス張りの土間に、LDKを新設した。見上げると家のスケールを示すよ

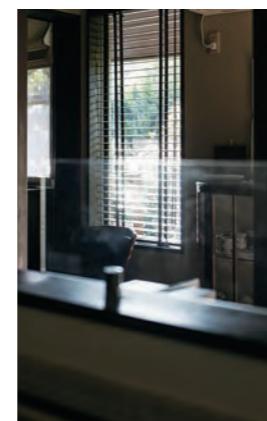
うな立派な梁。この部屋はご近所の人と気軽に関われるサロンのようない役割と、毎日の食事を取る場もある。部屋の主役は薪ス

トーブだ。静かに揺れる炎と時折パチッと薪の爆ぜる音が、豊かな静寂を演出する。ピクチャーウィンドウにはつくばいを配した坪庭の緑。夜にはライトアップもする

という。炎とブラインド越しのやわらかな光、雪のように咲く白い梅が冬の日の目を喜ばせる。



Beam.



薪ストーブはアメリカ製。「部屋はもちろん、背中がホカホカと温まるんですよ」と奥様。床は無垢クリ材▶

豊かさを教えてくれた100年の趣 住む人たちに

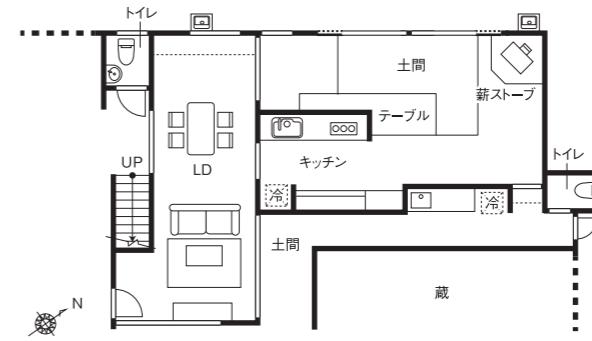
南側の正面に回ると棟門のある玄関を持つ母屋が現れる。ゆつたりとした田の字型の間取りの母屋と蔵、庭園もあり由緒ある建物であることが分かる。リノベーションを行った土間は家の北側の一角。今回のリノベーションは先祖が残してくれたこの日本家屋を守りながら、現代的に住み良い空間を持つことが目的だった。

現在は1日の大半を土間のLDKで過ごす夫婦だが、ゆつたりとした時間と空間を持つことは、100年の時間を過ごしたこの家の懐の大きさによるものかも知れない。

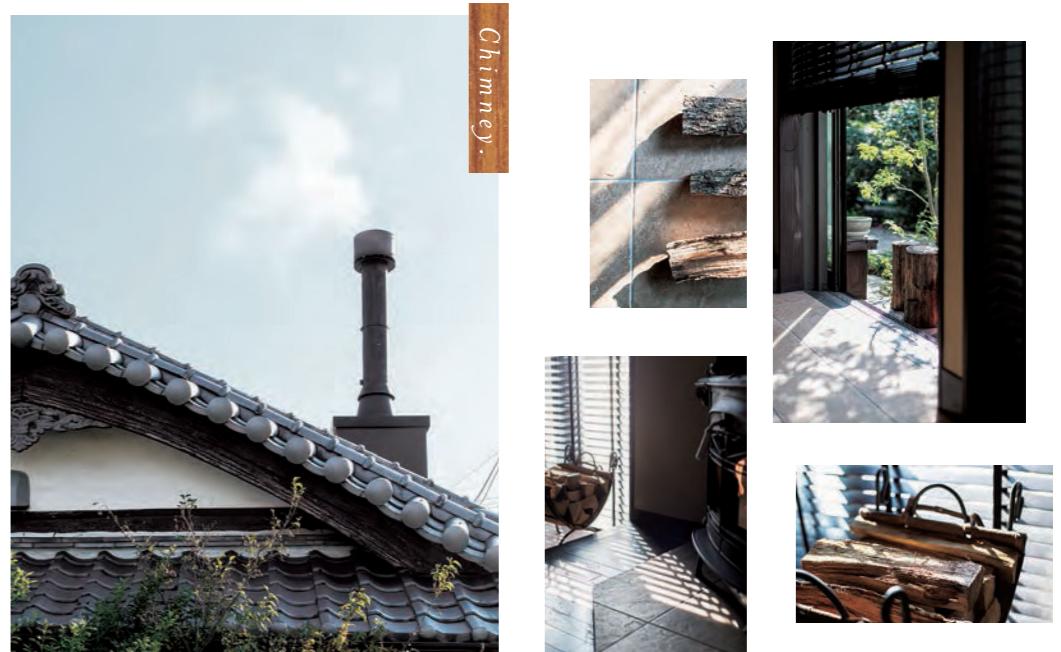


旧家の趣をそのままに
心地良く、暖かな
暮らしやすさを

土間の隣には今なお蔵が残っている。石垣の基礎と漆喰の壁が静かな陰影をつくる



1F 母屋（一部）
Plan



Chimney.